

地域医療シンポジウム

今こそ!

神栖で地域医療の神髄に触れよう!

プログラム

若手
医師

ベテラン
医師
指導医

大学生

大学
シンク
タンク

地域医療の
未来に向かって
本音トーク

高校生

企業

地方
自治体

市民



とき

2024 10/13・14

日

月祝

ところ

茨城県神栖市
かみす防災アリーナ

TAO医師団(地方創生医師団) × 神栖市若手医師きらっせプロジェクト 共催

- 神栖市若手医師きらっせプロジェクト事務局
神栖市役所地域医療推進課
☎ 0299-77-8207 ✉ iryo@city.kamisu.ibaraki.jp
- TAO医師団(地方創生医師団)事務局
担当:合谷 ✉ gohya@hms.or.jp

目次

メッセージ	3
プログラム	4
シンポジウム	
○オープニングプレゼンテーション	5～7
○トーク&トーク	8～10
○神栖宣言	11
市内探訪	12～14
資料集	
○市の概況	
人口・年齢、医師数などのデータ	15～16
○アンケート調査等から	
市民が誇れるもの、目指すまちづくり	17
市民や企業が求める医療	18～19
神栖市固有の医療需要	
①産業都市ならではの求められる医療体制	20
②将来、神栖市で働く若手医師や医学生に期待すること	20
③労働災害	21
④農業・漁業・スポーツ交流都市関係	22～24
○地域特性を生かした研修メニュー	25
会場図、周辺図	27～28



メッセージ



神栖市長

石田 進

神栖市の医療は実に多様な主体のご尽力によりかたちづくられています。私が最も心がけていることは、皆さんのベクトルを一致させる努力を惜しまないこと、そして神栖市で奮闘する医療者を全力でサポートすることです。皆さん、神栖市へようこそお越しくれました。立場の違いを超えて、新たな思い、ビジョンを描く時間を共有しましょう。



TAO医師団
(地方創生医師団)
団長

江角 悠太

「あなたに全部預けるよ、だから絶対に最期まで診てね」継続的に患者に関わり、苦楽を共に乗り越え、共有してきたかかりつけ医が言われて最も嬉しい言葉である。一人を健康に最期まで診ることは、その生活の一部になることであり、物語の登場人物になる。死直前に「あなたに会えて本当によかったよ」そんな医者をもっと増えてもいいかもしれない。



きらっせ
プロジェクト
コーディネーター

永井 秀雄

医療は人と人との付き合いです。患者と家族、職場の仲間同士、地域の人たち、お互いの人生を見つめ合う場です。人生ですから喜びも悲しみもあります。神栖で医療の一端に触れてみませんか。神栖の良いところは空が広いこと。空が広いと心も広くなります。ここで語り合った経験はいつか人生の道しるべになります。きらっせ!



プログラム

10月13日(日)

神栖市内探訪

- 10:00▶12:00 市内探訪
第1班 歴史と都市拠点
第2班 スポーツ交流フィールドと漁港、地場産品
第3班 鹿島臨海コンビナートと都市公園

シンポジウム

- 13:00▶13:10 石田進神栖市長あいさつ
13:10▶13:40 学生による神栖市内探訪報告

—オープニングプレゼンテーション—

- 13:40▶14:05 プレゼン1 TAO医師団(地方創生医師団)団長 江角悠太氏
「日本の全てはへき地になる。へき地精鋭がこれからの日本をつくる」
14:05▶14:30 プレゼン2 きらっせプロジェクトコーディネーター 永井秀雄氏
「心がけてきたこと～分断しないこと～」
14:30▶14:45 プレゼン3 神栖市医療対策監 藤枝昭司氏
「地方自治体からのメッセージ～地方行政マンの微笑みと悲しみ～」
14:45▶15:00 休憩

—トーク&トーク(第1部)-地域医療の未来に向かって本音トーク—

- 15:00▶16:00 テーマ1「それぞれの思い 地域医療の理想と実際」
～はじめに地元医師のリレートーク～
16:00▶17:00 テーマ2「フィールドの魅力と可能性～広い空の下で～」
17:00▶18:00 移動(交流会会場アトンプレスホテルへ)

交流会

- 18:00▶20:00 交流会

10月14日(月・祝)

シンポジウム

—トーク&トーク(第2部)—

- 9:30▶11:00 テーマ3「地域医療を志す医師が働きたいと思える環境・体制」
11:00▶11:15 休憩
11:15▶11:45 クロージング：2日間の総括「神栖宣言」

○プレゼン1

「日本の全てはへき地になる。へき地精鋭がこれからの日本をつくる」

TAO 医師団団長 江角 悠太

志摩市民病院地域医療医務監、日本専門医機構総合診療特任指導医ほか

- ・ひと、もの、かねが増加する時代から減少する時代へ
- ・日本の医療の方向性 急性期 地域包括期 慢性期
- ・潰れかけた志摩市民病院
- ・総合診療医の役割
- ・へき地精鋭 地域総合診療専門医制度
- ・のろ志

memo

○プレゼン2

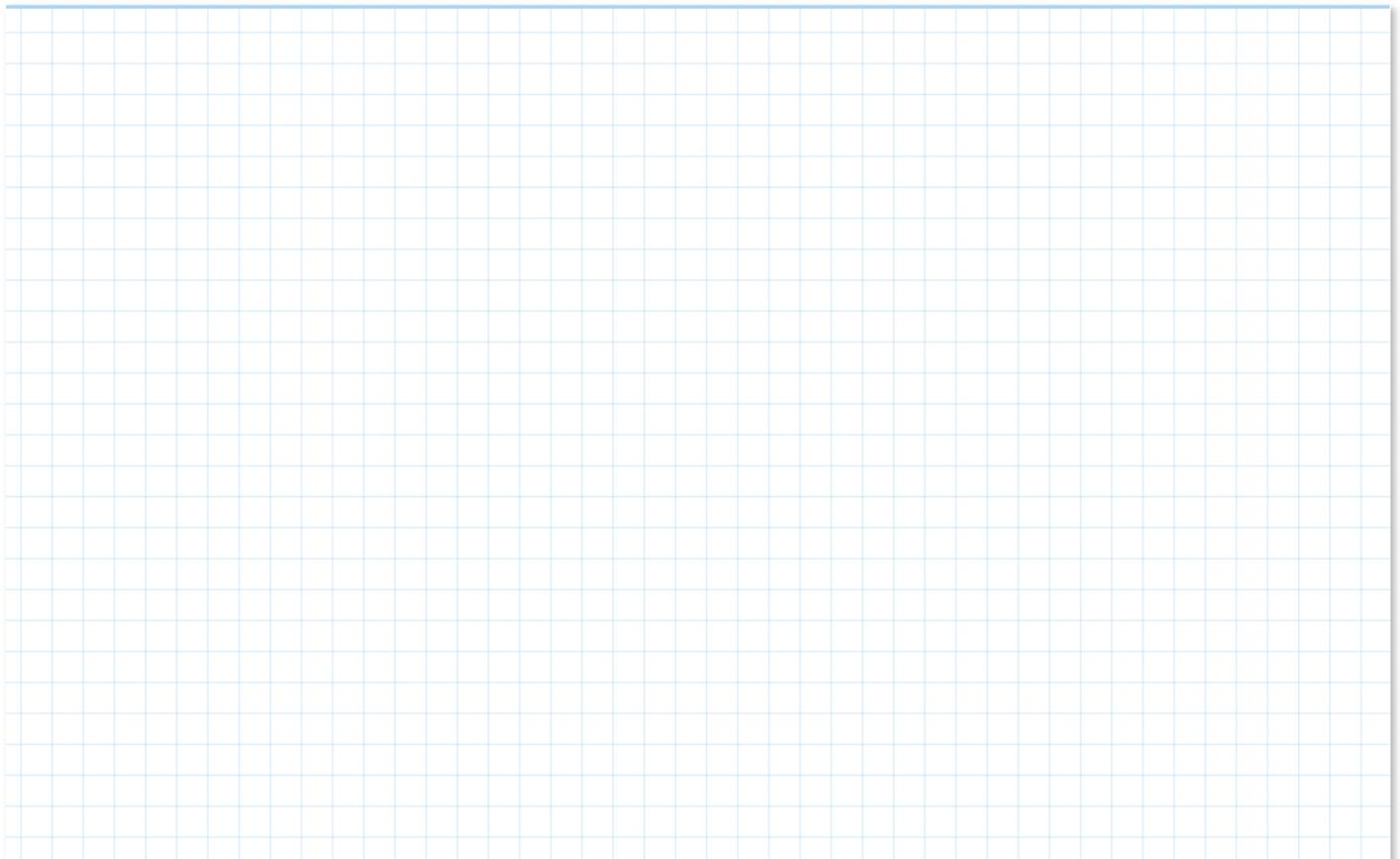
「心がけてきたこと～分断しないこと～」

きらっせプロジェクトコーディネーター 永井 秀雄

茨城県立中央病院名誉院長、自治医科大学名誉教授、練馬光が丘病院管理者ほか

1. 専門医と総合医
2. 日本の医療提供体制
～急性期・回復期・慢性期～
3. 分断しない医療
～症例を通して～

memo



○プレゼン 3

「地方自治体からのメッセージ～地方行政マンの微笑みと悲しみ～」

神栖市医療対策監 藤枝 昭司

I はじめに

II 若手医師・医学生の皆さんへのメッセージ

1 地方自治体とのコラボ効果の発揮のために

①地方自治体を知る

②コラボするパートナーとして期待されることは？

2 本日参加している地方行政マンを代表して

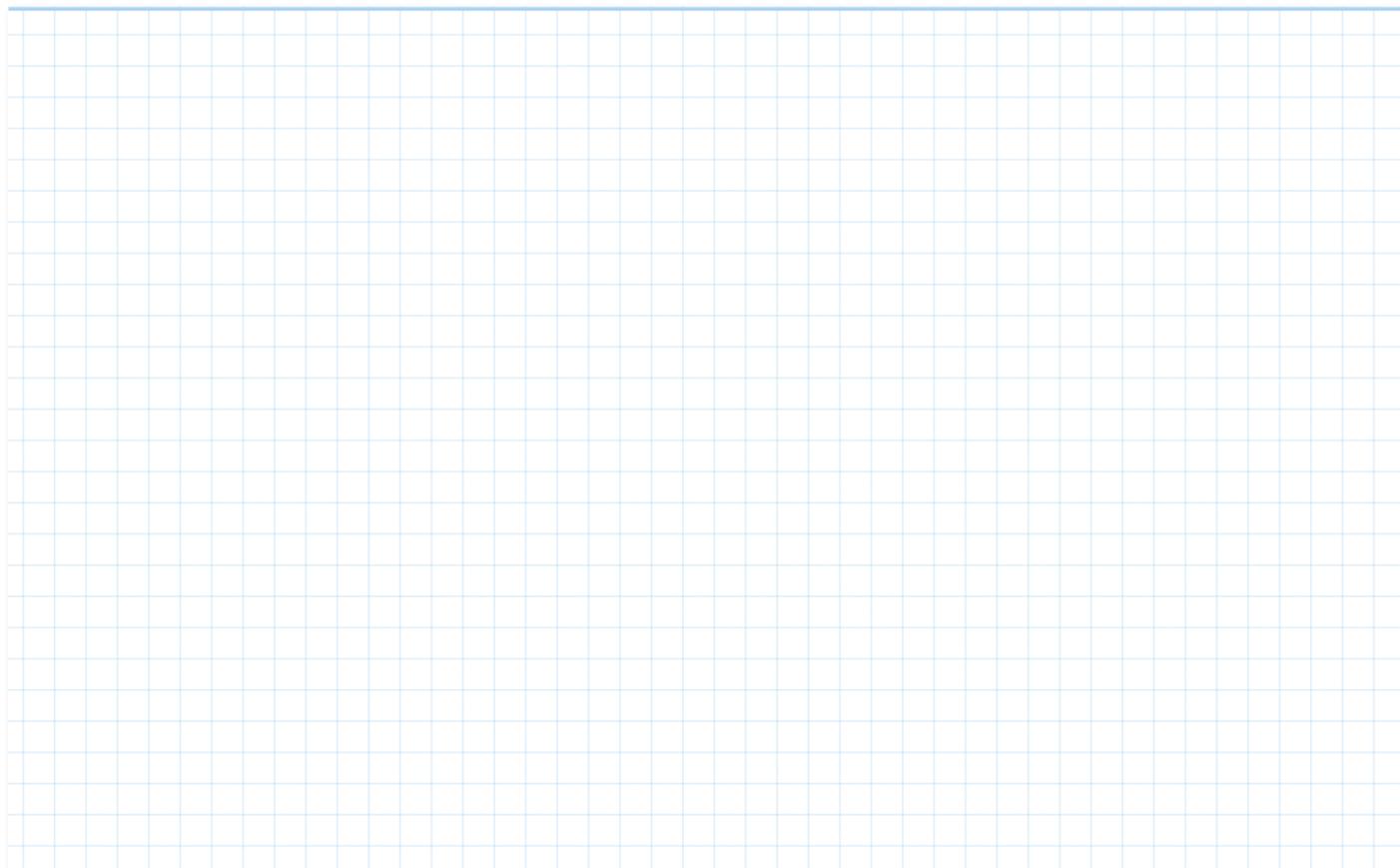
①思う存分活躍していただくために

②問題の所在は？

③ナショナルミニマムとしての医療システムの構築

III 結びに

memo



○テーマ1

「それぞれの思い 地域医療の理想と実際」

～はじめに地元医師のリレートーク～

memo

A large rectangular area filled with a light blue grid pattern, intended for taking notes during the event.

○テーマ2

「フィールドの魅力と可能性～広い空の下で～」

memo

A large rectangular area filled with a light blue grid pattern, intended for taking notes. The grid consists of small squares and is bounded by a thin blue line on the top and left sides.

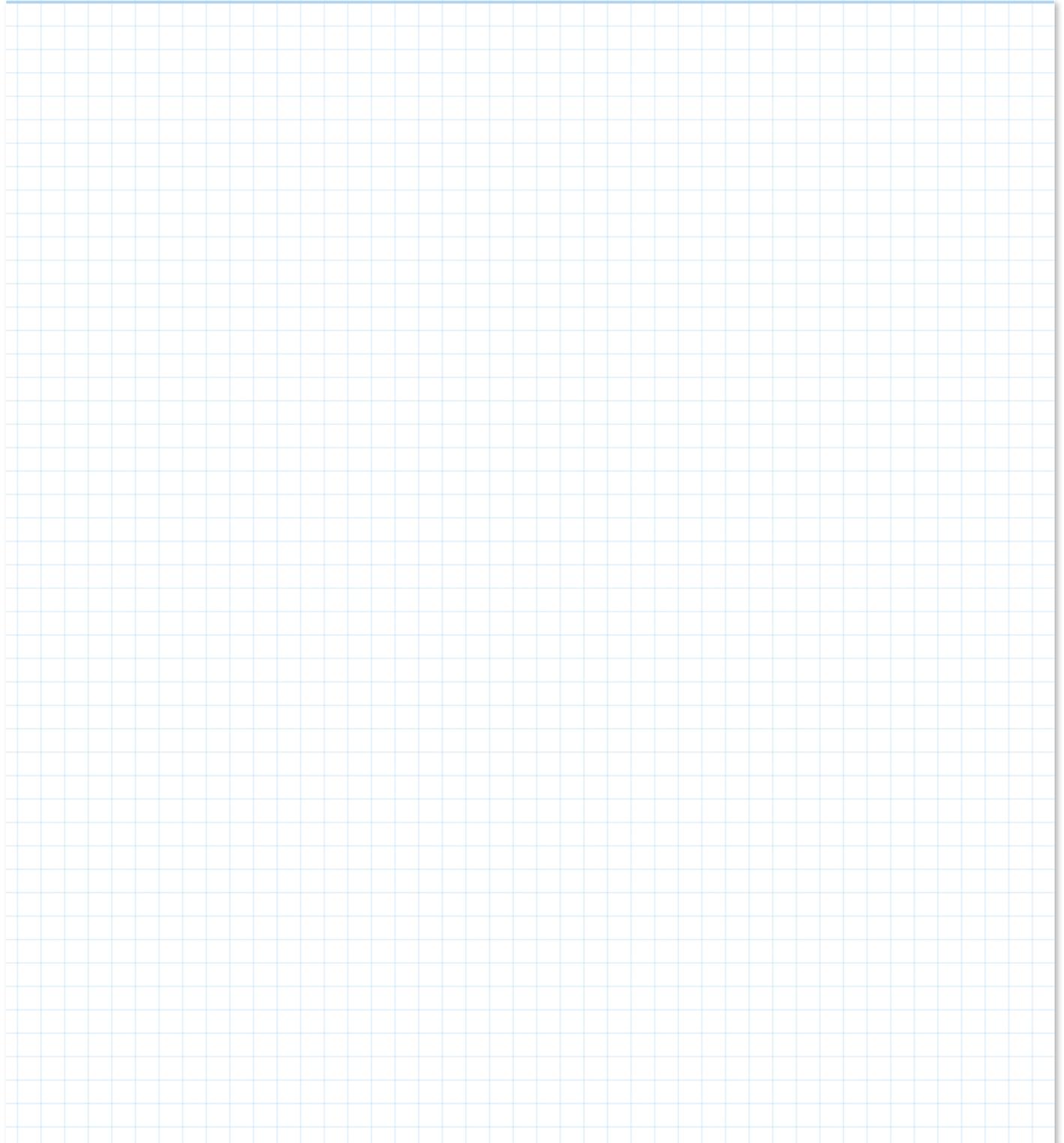
○テーマ3

「地域医療を志す医師が働きたいと思える環境・体制」

memo

A large grid area for taking notes, consisting of a light blue grid pattern on a white background, occupying most of the page below the 'memo' header.

memo



神栖市内探訪

第1班：歴史と都市拠点コース

10:00 出発

(バス移動)

10:15 ①息栖神社・にぎわい拠点
～ 〈周辺散策〉



東国三社のひとつとして数えられた由緒ある神社。周辺では、まちのにぎわいづくりとして観光拠点施設の整備を進めています。

10:45

(バス移動)

11:10 ②鹿島セントラルホテル
～ 〈周辺散策〉



鹿行地域のランドマークであり、神栖市の玄関口。周辺には商業施設等が集積し賑わいを形成しています。

11:30

(バス移動)

11:40 ③神栖中央公園
(徒歩移動)



地域の防災拠点。平常時は憩いの場として市民に親しまれています。また、全国のよさこいチームが集結する「かみす舞っちゃげ祭り」の会場でもあります。

12:05 かみす防災
アリーナ到着
昼食



2019年オープン。災害時には避難所として、平常時はスポーツなどの各種イベント開催され、多くの人が集い、賑わっています。

【ガイド】

(医師) 白十字総合病院 消化器内科部長 赤井 博孝

(市民・企業) 息栖神社 氏子総代会責任役員 大塚 光男

市民代表 鈴木 清隆

(行政) 神栖市 政策監・政策企画課長 相原 康秀

政策企画課 係長 木内 崇仁



神栖市内探訪

第2班：スポーツ交流フィールドと漁港、地場産品コース

10:00 出発

(バス移動)

10:30 ①WINDS BASE

10:45

(バス移動)

10:55 ②ジャーニー
若松グラウンド
③若松運動場
(車窓から)



神栖市はピーマンをはじめ、多くの野菜や稲作、花卉類の生産が盛ん。世界で約2,000羽しかいないコウノトリの繁殖地にも選ばれる豊かな自然に恵まれています。



100面以上のサッカーグラウンドを有し、オーストラリアやスペインのユース世代選抜チームが参加する大会も開催されています。

11:20 ④波崎漁港

～ 昼食

12:00

(バス移動)

12:05 ⑤利根川河口
(車窓から)

12:45 かみす防災
アリーナ到着



海岸線は風力発電の風車が立ち並び、海水浴、サーフィン、釣りなど年間を通じてレジャースポットとして親しまれています。



黒潮と親潮がぶつかる良好な漁場が広がっており、鯖・鰯のまき網漁業は全国有数の漁獲量を誇ります。

【ガイド】

(医師) 鹿嶋ハートクリニック 副院長 佐藤 寿俊
 (市民・企業) (株) agri new winds 代表取締役 飯田 等
 はさき漁業協同組合 総務部長 宮本 聡
 (行政) 神栖市 観光振興課 課長 西廣 純一
 広報戦略課 課長補佐 廣野 純子



神栖市内探訪

第3班：鹿島臨海コンビナートと都市公園コース

10:00 出発

(バス移動)

10:25 ①神之池緑地公園

～ 〈周辺散策〉

10:55

(バス移動)

11:10 ②鹿島港乗船所

11:20 ユーリカ号出航

11:55 ユーリカ号帰航

12:00 昼食

12:25 鹿島港乗船所出発

(バス移動)

12:40 かみす防災

アリーナ到着



市民体育館や武道館、文化センターなどの運動・文化施設もあり、市民の憩いの場として親しまれています。



鹿島港は日本を代表する工業生産拠点です。原材料や製品の海上輸送基地として重要な役割を担っており、夜景スポットとしても人気です。



ユウリカ号では巨大タンカー船や、大型クレーンの迫力ある荷台風景などを海上から見学することができます。

【ガイド】

(医 師) 神栖産業医トレーニングセンター 釜野 彬仁

(市民・企業) AGC(株) 野中 富士子

鹿島埠頭(株) 総務部 次長 大森 惣一、総務課 課長代理 高橋 克也

船舶部 船舶営業課 課長代理 小野 利文

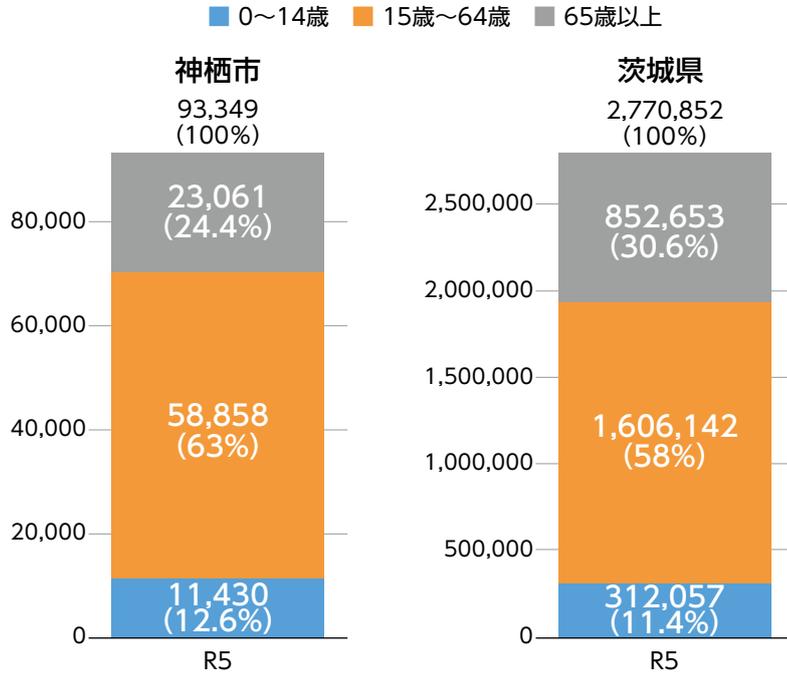
信越化学鹿島グループOB会 幹事長 古徳 正

(行 政) 神栖市 広報戦略課 課長 池田 修治、課長補佐 岩井 栄祐



市の概況

年齢3区分人口



出典：茨城県常住人口調査 茨城県の年齢別人口(10月1日)
※年齢不詳は除く

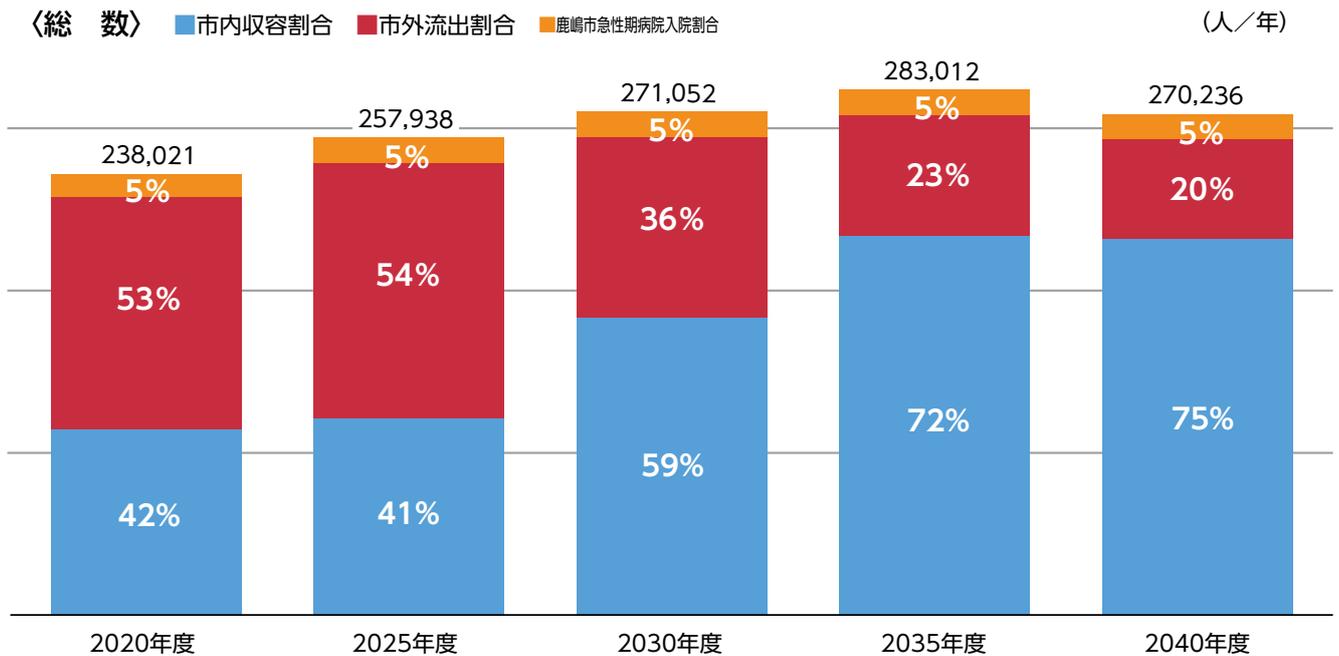
合計特殊出生率

県内順位	H30~R4	
1位	神栖市	1.54
2位	つくばみらい市	1.53
3位	鹿嶋市、つくば市	1.49
-	茨城県平均	1.34
-	全国平均	1.33

合計特殊出生率：1人の女性が生涯で出産する子どもの数を推定したもの

出典：厚生労働省「平成30年~令和4年人口動態保健所・市区町村別統計の概況」(R6.4.19発表)

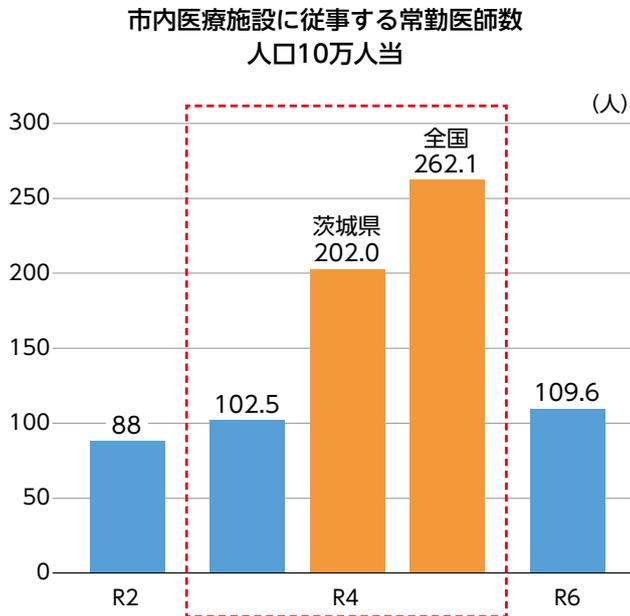
神栖市延入院患者数推計(全疾病)



(増床の内訳)
 ・白十字総合病院20床提供再開(2024年度予定)
 ・鹿嶋ハートクリニック4床増床(2024年度予定)
 ・2030年度及び2035年度は、神栖済生会病院のファーストステップ56床増床とセカンドステップ115床増床が既に稼働しているものとして計算

市の概況

市内常勤医師数



出典：R2・R4医師・歯科医師・薬剤師調査
R6 関東信越厚生局保険医療機関・保険薬局の指定一覧(R6.4.1)
神栖市人口オープンデータ(R6.3末)

医師偏在指数

二次医療圏	医師偏在指標	全国順位、前回との増減(全330医療圏)	区域分類
水戸	231.2	94 ▲ 6	多数
日立	140.3	308 ▲ 11	少数
常陸太田・ひたちなか	140.3	309 ▲ 8	少数
鹿行	137.2	315 ▼ -5	少数
土浦	184.4	204 ▼ -53	
つくば	337.7	23 ▼ -9	多数
取手・竜ヶ崎	173.3	235 ▼ -4	少数
筑西・下妻	153.0	284 ▲ 32	少数
古河・坂東	148.8	292 ▲ 20	少数

出典：第8次(前期)茨城県医師確保計画(R6.3)

茨城県修学生医師の二次保健医療圏別配置状況比較

二次医療圏	人口(R2国勢調査) (人)	● 病院数(病床数250以上) ●のうち臨床研修病院数(R6.4.1)	R6 修学生医師数(総数304人) (人)
水戸	457,941	●●●●●●●●	72
日立	244,008	●●	33
常陸太田・ひたちなか	351,579	●●	28
鹿行	268,146	●	6
土浦	255,222	●●	6
つくば	352,362	●●●●●●	73
取手・竜ヶ崎	459,781	●●●●●●●● ※病床数250未満の臨床研修病院2施設あり	45
筑西・下妻	254,067	●●	1
古河・坂東	223,903	●●●	19

その他(県外猶予等)21人

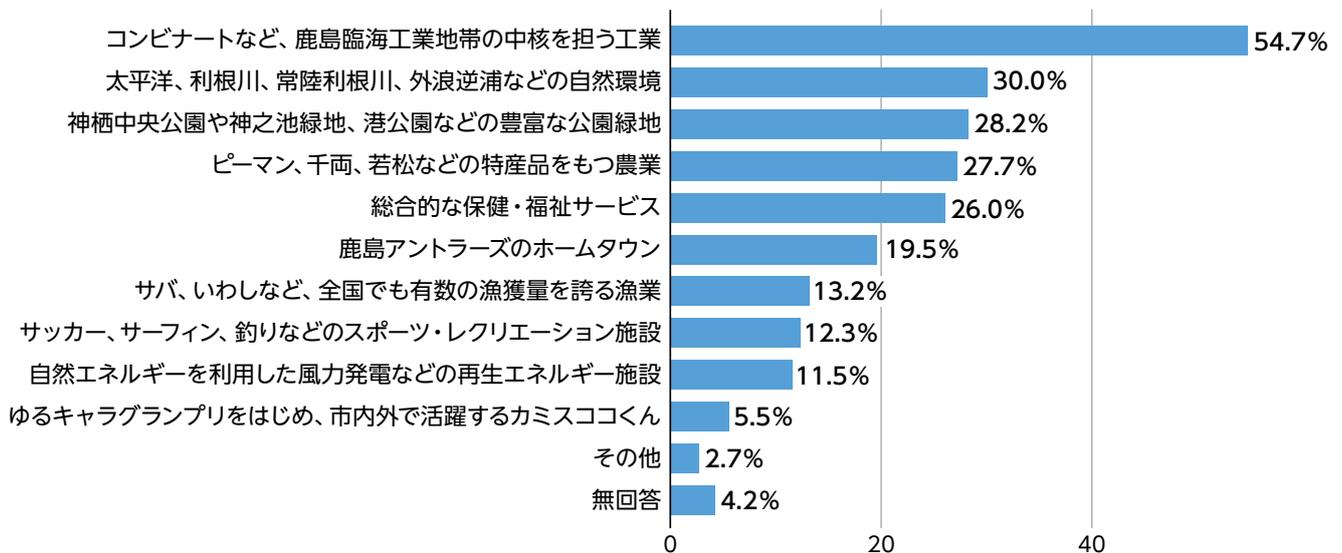
アンケート調査等から「市民が誇れるもの、目指すまちづくり」

調査内容

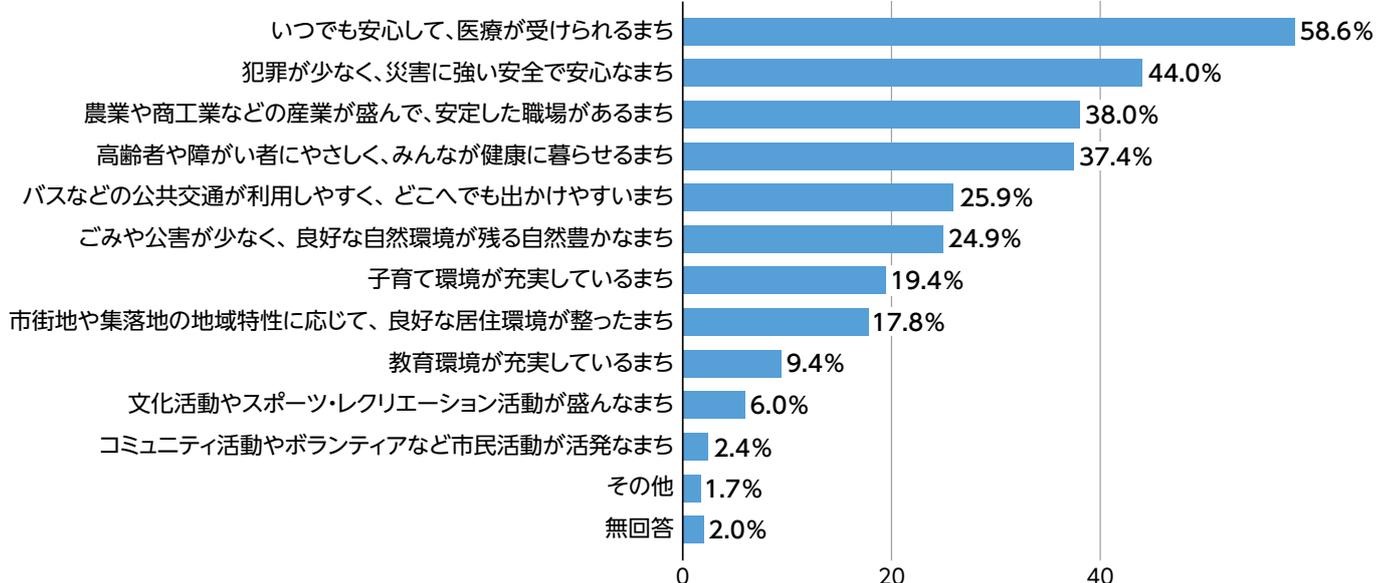
項目	内容
名称	令和3年度 市民アンケート調査
目的	第3次神栖市総合計画策定に当たり、広く市民等の意向把握を行うため実施したもの
対象者	神栖市在住の18歳以上の男女6,000人、無作為抽出
調査方法	紙面方式、WEB方式(インターネットによる配布・回答)の併用 無記名方式
調査時期	令和3年11月
回答数	回答数2,841票(紙面方式2,315票、WEB方式526票)、回答率47.35%

アンケート結果

Q1：神栖市の魅力、誇れる・自慢できるもの 〈回答数 2,841〉



Q2：今後、神栖市が目指すまちづくり 〈回答数 2,841〉



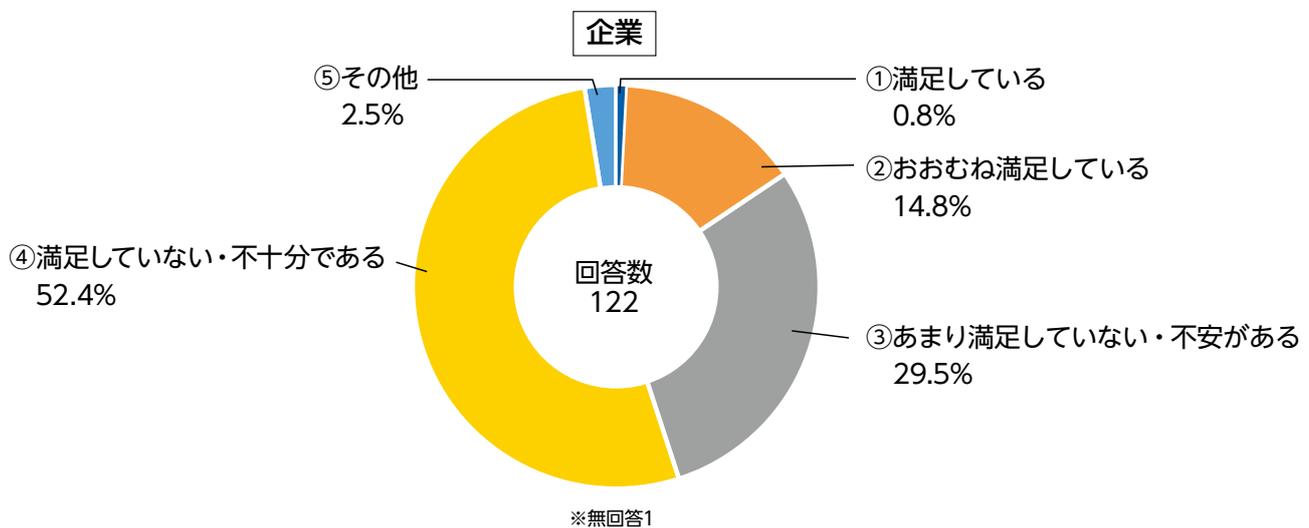
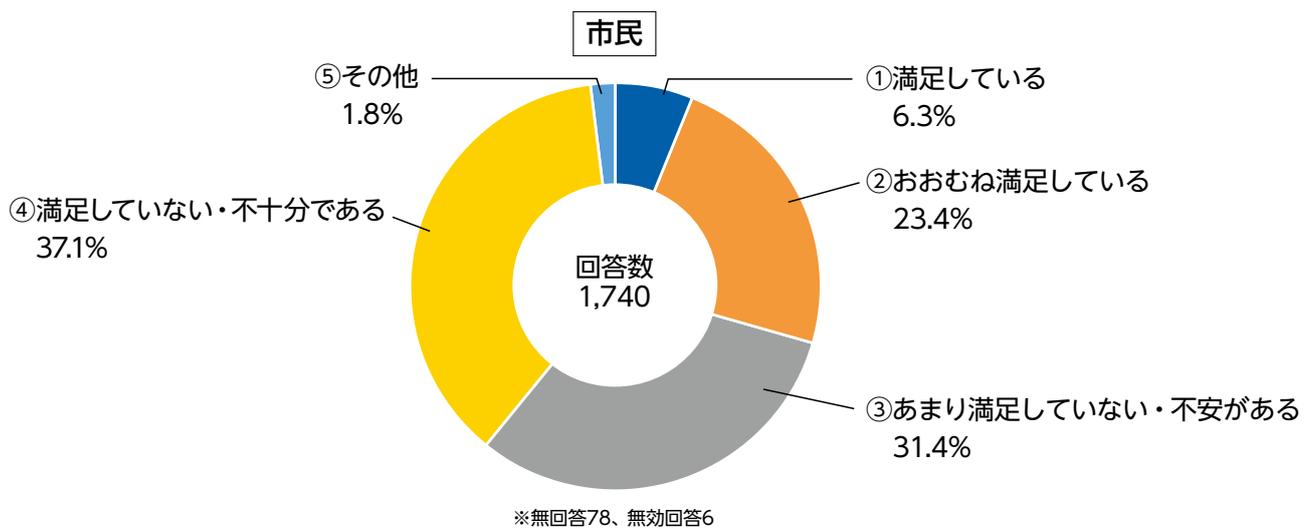
アンケート調査等から「市民や企業が求める医療」

実施内容

項目	市民意識調査	企業意識調査
名称	令和元年11月 医療体制に係る市民・企業意識調査	
趣旨	神栖市地域医療体制の検討に当たり、市民・企業に医療体制についてのアンケート調査を実施した。	
対象者	神栖市に在住する20歳以上の男女5,000人住民基本台帳から年代別・居住地域別に無作為抽出	コンビナート・工業団地に属する企業、全197施設
調査方法	郵送配布・郵送回収	
調査時期	令和元年11月28日(木)～令和元年12月12日(木)	
回答数	1,824 票、回答率 36.5%	123票、回答率62.4%

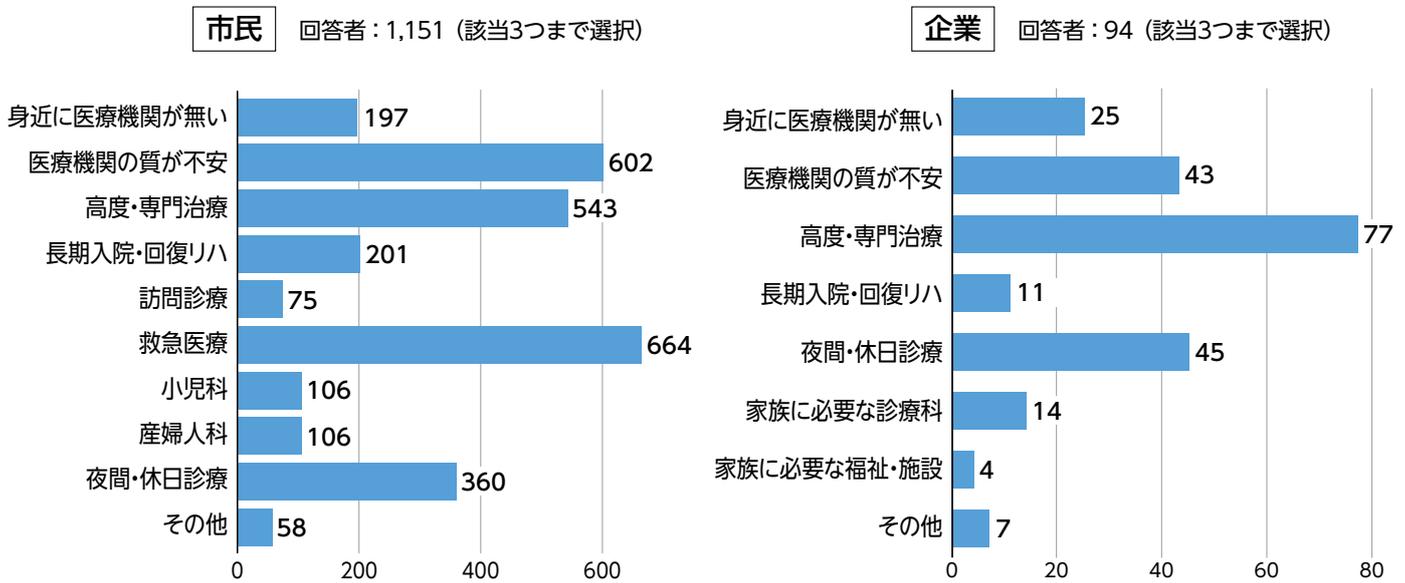
アンケート結果

Q1：お住まい・お勤めの地域の医療環境についてどのように感じていますか

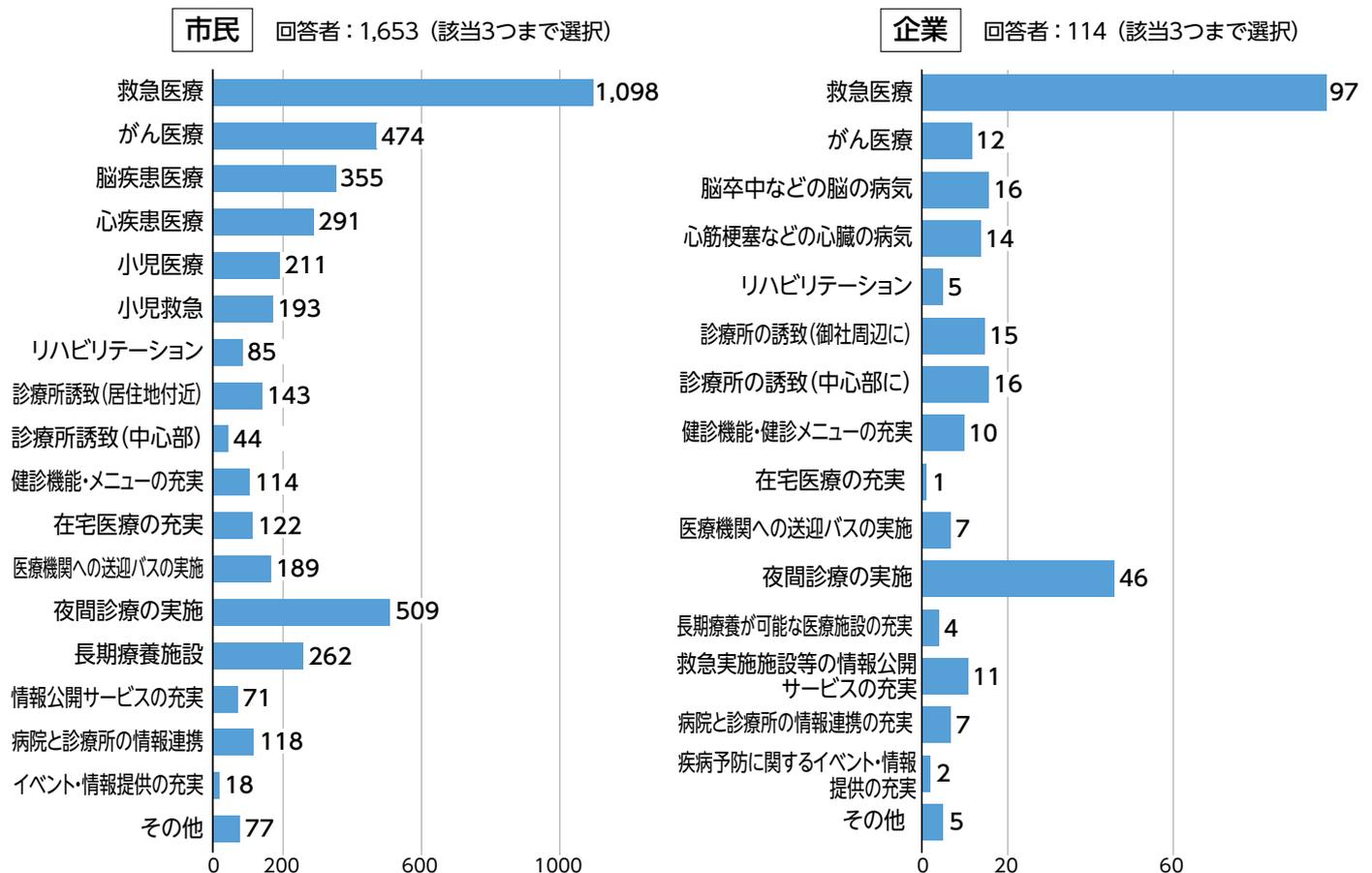


Q2：医療環境について不安がある、不十分であると思われる理由は何ですか

※Q1で、③または④を選んだ方のみ対象



Q3：神栖市の医療体制において、充実を希望するものは何ですか。



アンケート調査等から「神栖市固有の医療需要」

①産業都市ならではの求められる医療体制

今、企業は生き残り競争、地域間競争に打ち勝つため、必死。そのような中、医療体制の脆弱さはハンデ。神栖済生会新病院の整備及び白十字総合病院の強化を図ってほしい
(かみすの医療に関する市民と専門家の懇談会)

企業として、労働災害への対応強化を願っている。特に、熱傷・薬傷の救急は市内の受け入れが弱いので改善を
(企業・医療機関・行政連絡調整会議)

企業は24時間操業。夜間早朝など24時間の救急受け入れ体制の充実強化を求む
(企業・医療機関・行政連絡調整会議)

企業の若手社員にとって、妊娠出産、子どもの救急など、周産期や小児科の充実が特に重要
(企業若手社員とのまちづくり懇談会)

企業では、若いうちから当地域に配置するなど、定着促進につながるような人事管理に努めている。医療従事者の定着においても、若手医師を受入れることが重要。その点では、臨床研修病院をつくるのが当地域に必要ではないか
(企業・医療機関・行政連絡調整会議幹事会議)

鹿島労災病院の廃止を受け入れた市民の思いを忘れずに
(神栖市地域医療体制検討委員会)

行政や医療機関が懸命になって改善に向け努力していることが分かった。企業も要望するだけでなく協力できるよう努めていきたい
(企業・医療機関・行政連絡調整会議)

[懇談会や企業・医療機関・行政連絡調整会議等での意見]

②将来、神栖市で働く若手医師や医学生に期待すること

人間の命を身近に感じる職業だと思うので、ただ仕事をこなせばよいとは考えずにこの仕事に信念を持って取り組んで欲しい

患者さんの不安を取り除いて欲しい

患者さんと真摯に向き合ってくれる医師。自分も大切にできる医師

患者を差別しない。患者に寄り添う医師
患者へ親身に寄り添う医師であって欲しい
患者に寄り添ってくれる話しやすいドクターになってほしい

地域性を理解し信頼される医師

とにかく救急対応をお願いしたい

時間外であっても対応してくれる先生がいてほしい

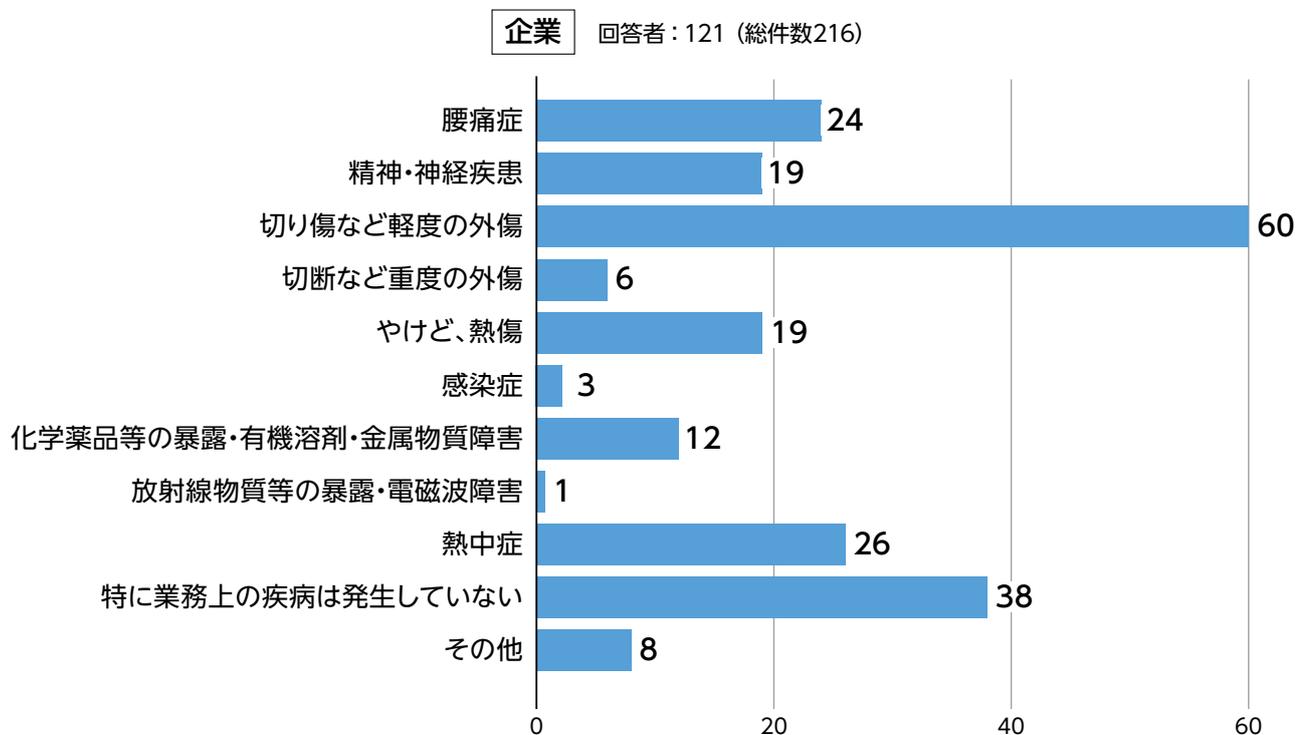
スポーツ合宿で訪れる学生が多く、現代の子ども達は、多様な状況があるため、若手医師や医学生に神栖市で働き経験を積んでいただきたい

神栖で学んで立派な医師に育ててほしい。将来、大いに活躍してほしい

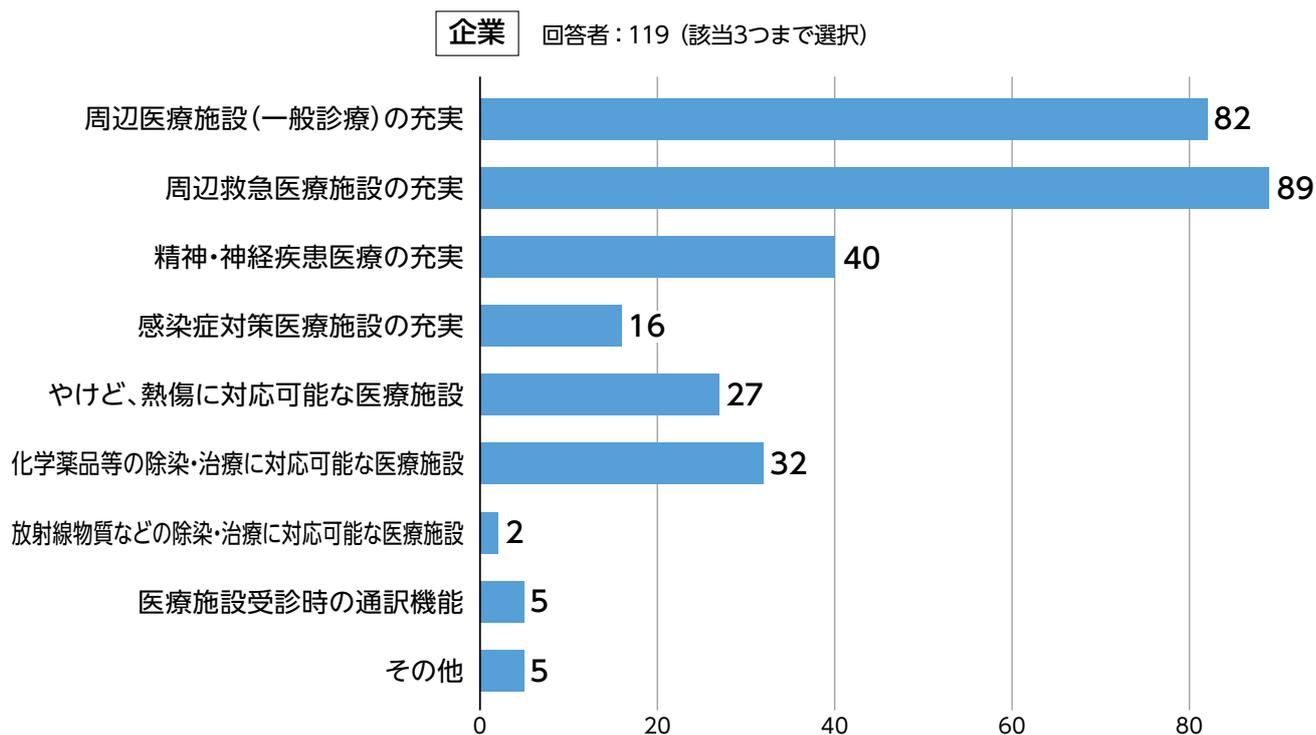
[農業・漁業従事者、旅館業者アンケートからの意見]

③労働災害

Q1：過去3年間に発生した業務上の疾病



Q2：労働災害の対応として充実を希望するもの



④農業・漁業・スポーツ交流都市関係

本市の主要産業における医療ニーズを把握するため、令和6年8月にアンケート調査を実施した。

〈農業・漁業従事者アンケート〉 対象：20代~60代の従事者及び外国人労働者(技能実習生)の雇用主

Q1 業務に従事するうえで特有の疾患

疾患	具体的な場面
	農業従事者
切り傷、切断	<ul style="list-style-type: none"> ●収穫用はさみで手を切る ●トラクターメンテナンス中に手を挟む ●除草作業中に鎌で指を切る
骨折、打撲	<ul style="list-style-type: none"> ●ハウスの上から落ちる ●操作ミスでトラクターと木に足を挟まれる ●ハウスのパイプに頭をぶつける ●畑で転倒し膝を打撲
関節痛・腰痛	<ul style="list-style-type: none"> ●重い物で腰痛に(ヘルニア、座骨神経痛)
眼の疾患	
熱中症、低体温症	<ul style="list-style-type: none"> ●ハウス作業で熱中症
虫刺され、動物咬傷	<ul style="list-style-type: none"> ●蜂に刺される
精神疾患	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ●農薬で湿疹になる

疾患	具体的な場面
	漁業従事者
切り傷、切断	<ul style="list-style-type: none"> ●魚のヒレで手を切った ●ウィンチ等でのロープ巻き上げ時に手を巻き込み、指先5mm程度を欠損。船上には色々なウィンチがあり、関連事故多い
骨折、打撲	<ul style="list-style-type: none"> ●船の高所から転落 ●氷を倒し足に当たる ●夜間に転倒して骨折 ●転倒し脇腹をローラーに強打し肋骨にひびが入る
関節痛・腰痛	<ul style="list-style-type: none"> ●漁獲物などを入れたカゴを持ち腰を痛める
眼の疾患	<ul style="list-style-type: none"> ●くらげが目に入り負傷
熱中症、低体温症	<ul style="list-style-type: none"> ●夏場の操業で熱中症になる
虫刺され、動物咬傷	<ul style="list-style-type: none"> ●エイ等による刺傷。選別作業中に魚のトゲや骨(死骸)等が誤って刺さる。油断し、消毒を怠ったことで思いがけずに腫れたり、化膿する
精神疾患	<ul style="list-style-type: none"> ●操業中のストレスによる
その他	

Q2 外国人労働者が医療を受けるときの課題

分野	具体的な場面
コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ● 細かなニュアンスを伝えることが難しく、手術等の際「万一の場合」の説明に苦慮する ● インドネシア語には時制(過去、現在、未来)がないため、ニュアンスが曖昧になり誤解が生じやすい ● コミュニケーションが不安。組合の担当者が病院に行く際は対応してくれる。日本語で細かな症状を伝えることが難しい。問診表の記入が難しい ● 受診時に使用する言語：日本語、英語、インドネシア語 ● 受診時に使用するツール：スマホアプリ、外国人先輩の付添
生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ● 健康診断の経験が無いため、採血で気を失う者が少なからずいる。同様にインフルエンザ等の予防接種を怖がる者が多い ● 揚げ物料理が多いためか、高コレステロール、高脂血症の者が多い ● 辛いものを好む傾向のためか、痔の者が少なからずいる ● 耳掃除をする習慣がないため耳垢がひどく、来日前の健康診断で耳垢除去の処方を受ける者が多い ● 隠れ結核患者が少なからずいる
宗教	<ul style="list-style-type: none"> ● 食生活では、豚肉、アルコールが禁忌。豚肉そのものだけでなく、豚エキスが使用されるブイヨン、ゼラチン、ラードも使用不可。豚肉を見るだけで嫌悪感を抱く者、豚肉と同じ器具を使って調理された食べものを忌避する者も ● アルコールについては、ドリンクだけではなく、醤油、味醂など調味料として使用されるものも不可 ● インドネシアのイスラム教徒は若干ルーズなところはあるが、人それぞれであるためケガや疾病等による入院時には配慮が必要
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 病院までの交通手段がないため、受診が難しい ● 薬の理解が難しい ● 外国人は、虫歯の治療をしていない人が多い傾向がある。遠洋漁業に出てしまうと、身近に歯の治療を受けられなかったり、抜歯が必要となった際には寄港地やそのタイミングについて思い通りに対応することが難しいときがある ● 健康診断を受ける習慣がないため、重大な病気やアレルギーが隠れていることがある。想定外に重症化するとか、アナフィラキシーショックを起こすとか、慌てるケースもある

〈旅館業者アンケート〉 対象：スポーツ合宿受入先のホテル2件、旅館4件

Q3 スポーツ合宿の宿泊客に起こる疾患

疾患	具体的な場面
切り傷、切断	● 救急受診が必要な切り傷が頻繁に発生(特にサッカー団体の大会や練習試合)
骨折、打撲	● 高校生の頭部出血 ● 小学生がラグビーのタックルで脳しんとうに
関節痛・腰痛	● 選手が足を捻挫 ● 朝の散歩中に足を捻挫し、気分が悪くなり救急車を呼んだ
中毒	● 大学生が懇親会で急性アルコール中毒になり救急搬送
熱傷・薬傷	● 体育館で転倒し、床との摩擦で熱傷を負った
眼の疾患	● 野球ボールが当たり眼を負傷
熱中症、低体温症	● 熱中症が多発
虫刺され、動物咬傷	● スズメバチに刺されて救急要請
精神疾患	● 小学生が持病のパニック症状を発症(保護者と相談して合宿は続行)
その他	● 冬期合宿時に、発熱症状を訴えるお客さんが多発

Q4 医療について困っていることや特色など

神栖市自体がスポーツ合宿を提唱しているのにケガを受け入れる病院がないことは大きな問題である

スポーツ合宿の市内宿泊者数は、ハイシーズンで約3,000人/日であり、病気やケガのリスクが高まるため、市内医療体制の整備が課題である

切り傷や捻挫で当番医に連絡したが外科不在で受診不可となり、専門医不足を感じた。特に整形外科は予約診療が通常で、突発の際に受診できない所が多くて困っている

スポーツ合宿の多くは遠征であるため、ケガや病気の際には市内病院で応急処置を受けた後に、地元に戻って再受診が必要となる

小学生の打撲や脳しんとうが発生する。近くの病院で受け入れてもらえることもあるが、救急車を呼んでも1時間以上受け入れ先病院が決まらないこともある

アレルギーのお客さんが増えているため、事前確認に努めている。栄養士や専門医の充実をお願いしたい

食中毒、感染症防止に注意を払っており、手洗い、アルコール消毒、ビニール手袋の着用に努めている

地域特性を生かした研修メニュー

①産業医学基礎研修会

- きらっせプロジェクトにおいて、地域の資源として優秀な産業医が多数いることに着目
- 分科会を開催し、その特性を生かして産業医研修会スタートにチャレンジすることとしたもの
- 産業医育成と同時に、産業都市神栖を全国の医療界にアピールしていくことを目的に事業化

受講者数実績

	受講者数	県内	県外	都道府県数
令和2年度	637	258	379	27
令和3年度	687	315	372	22
令和4年度	906	295	611	25
令和5年度	913	288	625	27
合計	3,143	1,156	1,987	

協力企業

(順不同)

企業名	企業名
AGC	ケイミュー
DIC	三洋化成工業
ENEOS マテリアル	鹿島地方事務組合消防本部
JERA	信越化学工業
JSR	セブンイレブン
LSI メディエンス	ダイキン工業
ウェルシア	中国木材
花王	日本製鉄
鹿島石油	三菱ケミカル
鹿島埠頭	ユポ・コーポレーション
カネカ	ライオンケミカル
クラレ	

②熱傷・薬傷症例検討会

産業都市特有の疾患である「熱傷・薬傷」の基本的な治療法を学び、救急患者の受入を進めようとの市内医師からの提案により、症例検討会がスタート。令和5年度は3回開催し、延べ483人が参加。

令和5年度の開催状況

日付	講師など	場所
第1回 9月22日	田中 完(神栖産業医トレーニングセンター統括指導医) 東 修智(旭中央病院形成外科医長)	はさき保健・交流センター
第2回 11月16日	盛山 吉弘(土浦協同病院皮膚科部長) 原 義明(日本医科大学千葉北総病院救命救急センター部長)	かみす防災アリーナ
第3回 1月25日	山澤 翼(神栖市市長公室地域医療推進課) 林 卓哉(神栖産業医トレーニングセンターセンター長) 田中 完(神栖産業医トレーニングセンター 統括指導医)	

令和6年度の開催予定

日付	講師など	場所
第4回 10月3日	山元 修(鳥取大学名誉教授)	かみす防災アリーナ
第5回 12月4日	佐々木 淳一(一般社団法人日本スキンバンクネットワーク代表理事、慶應義塾大学医学部救急医学教授)	



厚生労働省 医政局長賞

上手な医療のかかり方アワード「厚生労働省医政局長賞」受賞

県内自治体で初めての受賞

厚生労働省の第五回上手な医療のかかり方アワードにおいて、神栖市の取り組みが、上手な医療のかかり方における総合的な制度設計が優秀な取り組みとして「厚生労働省医政局長賞」を受賞しました。

受賞した取り組みは、医療を受ける側と提供する側が双方のやりとりを通じて、共に考え、全員参加のもとに行動する「みんなが創る！みんなで守る！かみすの医療プロジェクト」です。冊子や広報紙による情報提供、市民の声を掘り下げる懇談会や企業も参加した連絡調整会議などの双方向での直接・間接の話し合い、さらには提案などを踏まえた医療教育や企業も参加する症例検討会などの発展的な取り組みが評価されました。

今後とも当プロジェクトの推進に努めてまいりますので、市民の皆さんの引き続きのご参加とご協力をお願いします。

市長が厚生労働省を訪問



左から 坪口 創太 医療政策企画官 石田 進 神栖市長

はじめに、石田市長から「市民や企業の賛同をいただきながら、全員参加で挑戦している取り組みが、皆さんに評価いただき、大変心強く感じております。受賞を励みとして、関係者の絆をより一層深めて、チャレンジを続けたい」と感謝と抱負を伝えました。

アワードの審査委員を務めた坪口医療政策企画官、担当の総務課片岡課長補佐からは、幅広い方々の参画を得て、取り組みを複数年度にわたって地道に継続・発展させてきており、有識者の皆さんからも、「素晴らしい取り組み」と評価された旨の説明がありました。さらに、「良い形で続けていっていただき、全国のモデルになってほしい」とのエールをいただきました。

懇談では、当市の施策の目標や課題などを話題としつつ、今後は、介護との連携の上でも市町村の医療政策上の役割が高まるとの国の認識や、地域医療構想の再検討がスタートしたこと、基金の活用方法が論点となっていることなどの情報提供がありました。

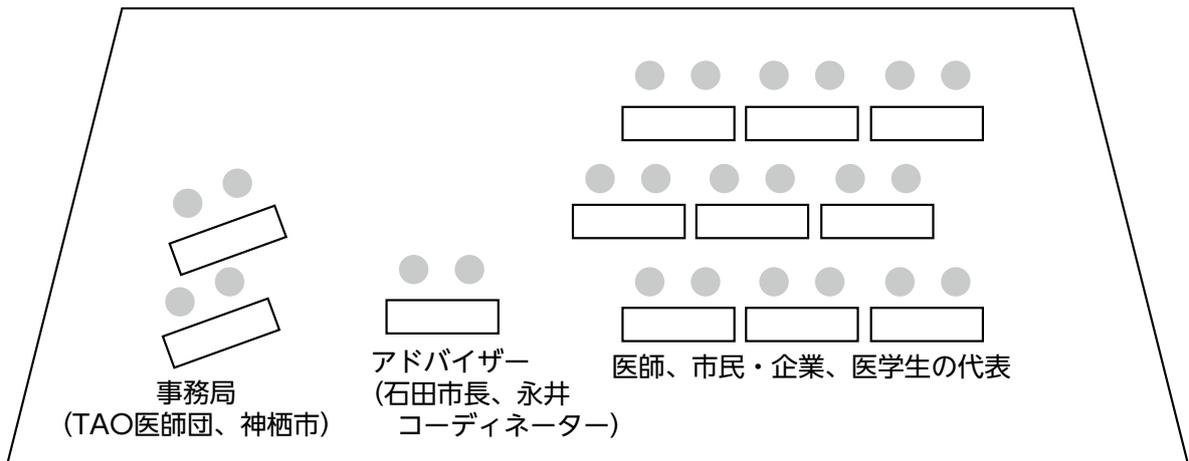
みんなが創る！みんなで守る！かみすの医療プロジェクト



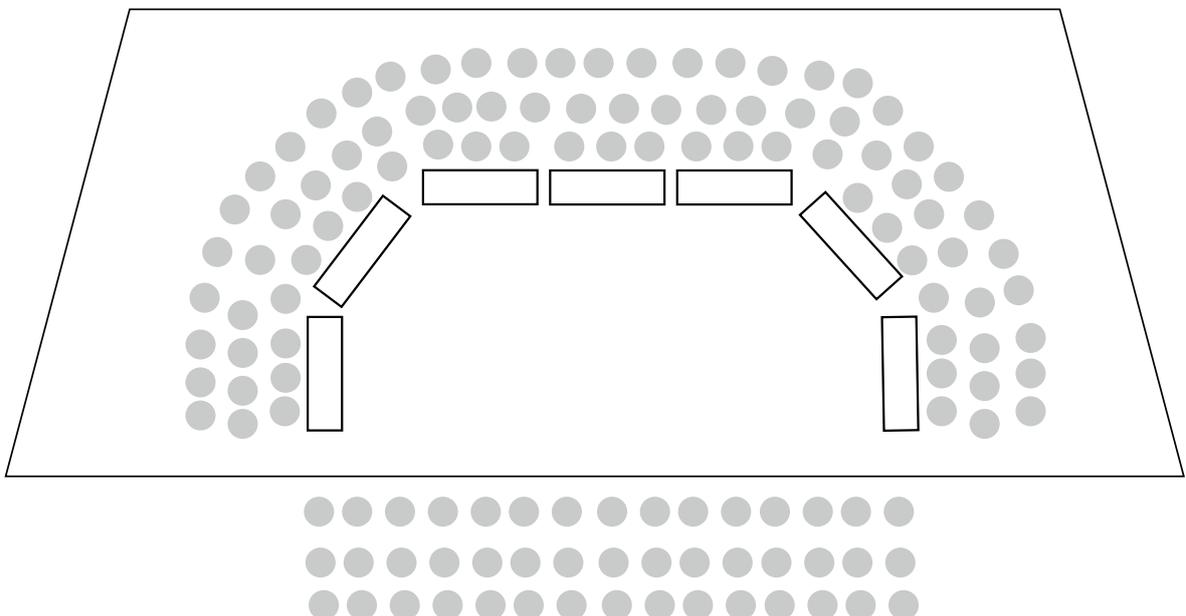
かみす防災アリーナ 会場図



10/13(日) ステージレイアウト



10/14(月) 参加者全員がステージと客席を使用してトークします



かみす防災アリーナ周辺図

★オレンジ色の駐車場がおすすめです



拡大図

アトンプレスホテル周辺図

